

平成22年度学位記授与式  
(理工学部・理工学研究科)  
平成23年3月23日  
創立50周年記念会館 みちのくホール

## 式 辞

理工学研究科から望める岩木山は、雪融けが進み角がとれておだやかな姿になりました。これを待って、皆さんの鶴首してきた学位記授与式が行われる予定でした。御承知の通り、東北関東大震災と福島原子力発電所事故により、多数の犠牲者と家や家族を失った方も多数おられる他に、本学でも安否の確認できない多数の学生のおりますことから、学位記授与式を中止とし、学位記伝達式としました。安否の確認のとれない学生諸君も、本日ここで一緒に学位記伝達式に臨んでいると思って下さい。

皆さん、学部卒業生の学位記及び大学院修了者の修士の学位記の取得、誠にありがとうございます。卒業論文や学位論文を作成するための厳しい実験の繰り返しを思い返すと、本日の学位記取得は、誠に充実した気持ちになられたと思います。

本年初め、我国はGDP世界第2位の座を中国に明け渡しました。開発途上国といわれるBRICs諸国、即ちブラジル、ロシア、インド及び中国が、今では莫大な資源と労働力と市場とをもって先進国を追い上げてきております。

この4月1日から実施される我国の第4期科学技術基本計画は、世界的変化として、資源、エネルギー、食などの国際的獲得競争が激化するとしている一方、科学技術と人材こそが資源であるとしています。その人材こそ、正に皆さんではありませんか。第4期科学技術基本計画は、知の資産を生み出す独創性・多様性そのものを、人材としての若い皆さんに求めています。

本学は、この科学技術基本計画にどう対処し、どう人材を育成してきたのでしょうか。本学は、理工学部、農学生命科学部及び医学部の理系3学部によって、理系にシフトしていると言わざるを得ません。本学理系学部は、それぞれ学部の上に大学院博士前期及び後期課程もしくは博士課程をもった、完成度の高い学部であります。

科学技術基本計画のグリーンイノベーションの基本的柱である、エネルギー、環境、食について、本学ではこの基本計画の案が示される10年も前から着々と実績を積んで、エネルギーに対しては我国初の北日本新エネルギー研究所を、環境については白神自然環境研究所を立ち上げて、本学の基盤整備は一段と進んでいました。

しかも、この度の福島原子力発電所の事故を見越していたわけではありませんが、青森県が原子力産業基地であることから、安心・安全のために必要と、被ばく医療を担った全国初の高度救命救急センターと被ばく医療総合研究所を立ち上げていました。これらの施設は医学を支える理工学の力が必要であって、これからいよいよ理医工連携が強まります。そして、既に医用システム開発マイスター養成塾が、医理工連携の人材育成を進めています。

そして更に、今本学は東北・北海道地域にはない重粒子線がん治療装置の設置に向けて積極的に運動しています。この装置の稼働には、理工学の中の物理学領域の力が絶対に必要であります。

学部内の研究態勢として、先進医用システム開発センター、液晶材料研究センター、次世代型IT基盤技術開発センターと分子材料化学研究センターが、学部の研究の方向性を鮮明にしています。

また、国立大学法人化前には本学には大型分析機器は少なく、また老朽化していましたが、機器分析センターを立ち上げて少しずつ機器を増やしてきました。その結果、今では平均的国立大学が有する以上の大型機器が、それもコロナ弘大内に専有の部屋を設けて設置しています。更に、青森市に設置された北日本新エネルギー研究所には我国に1・2台しかないという分析機器が、また被ばく医療総合研究所と高度救命救急センターにも放射線関係の機器が多数導入されています。現在、大型分析機器については、かなりのものが揃っていると言えるでしょう。

そして今、理工学部教員が本学の中核的施設の長として本学を牽引していま

平成22年度学位記授与式  
(理工学部・理工学研究科)  
平成23年3月23日  
創立50周年記念会館 みちのくホール

す。稲村隆夫理工学研究科長を先頭に、北日本新エネルギー研究センター担当の学長特別補佐 南條 宏肇元理工学部教授、機器分析センター 吉澤篤 教授、地域共同研究センター 牧野英司教授、総合情報処理センター 深瀬政秋教授、国際交流センター 倉又秀一教授です。そして、附属図書館の電子ジャーナル化に尽くされたのは清水俊夫教授、南條宏肇元教授、雨 森道紘元教授であります。加えれば、理工学2号館の日本一長いフーコーの振子は、理工学部のシンボルの一つです。

理工学部は、第4期科学技術基本計画を強力に推進する本学の強力な力の一つです。皆さんはここで学び、論文を書きました。振り返ってみれば、すばらしく充実した教官集団と研究環境の中で研究していたとは思いませんか。

皆さんは、理工学部及び理工学研究科で学んだことにより、十分な科学技術の基本とその技術とそして思考法とを身につけたと思います。これから社会に出て、または更なる大学院に進んで、自分の持てるものを大いに発揮して活躍して下さい。

皆さんは今、第4期科学技術基本計画の中で求められる人材であると同時に、この度の我国の東北関東大震災の復興のために期待されている人材です。

さあ、明日から皆さんは求められる人材として、その期待に応えられますように、そして、皆さんの力を十分に発揮して活動されるように、心から応援しています。

平成23年 3月23日

弘前大学長 遠藤 正彦